

# 27年6月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年6月1日～ 27年6月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
6月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
入荷動向	国産材	△ 50.0	△ 58.3	△ 58.3
	外材	△ 12.5	0.0	△ 25.0
在庫動向	国産材	△ 8.3	△ 25.0	△ 25.0
	外材	25.0	△ 12.5	△ 12.5

・国産材ラミナの入荷は3ヵ月連続して減少、外材ラミナは6月の減少が7月は横ばい、8月は再び減少。

・国産材ラミナの在庫は3ヵ月連続して減少、外材ラミナは6月の増加が7月、8月は減

### (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
国産材	△ 8.3	△ 4.2	△ 4.2
欧州材	66.7	66.7	66.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格はやや弱含みで推移、欧州材は強含みで推移、その他は横ばい。

## モニターからのコメント

### (ラミナ荷動き)

・スギラミナは順調に入荷しているが入荷量を調整している。カラマツは北海道産ラミナ・岩手県産ラミナは順調に入荷だが仕入量を調整中。スギ製品荷動き悪いため在庫量を調整、カラマツは前月同様仕入量を調整しているため在庫量は横ばい。

・入荷は通常通り。

・国産材は入荷調整が必要。外材は計算通りの入荷状況。スギは市場価格が安価すぎるため生産調整中（在庫が減らない）。

・構造材の市況は、依然として停滞、6月以降多少の増量は見込まれるが、特に国産材は价格的に弱含みで、商流は減産傾向として、価格維持に向かうと思う。少しずつ在庫を減らして、キャッシュフローの健全化を図る。

### (ラミナ価格動向)

・スギ、カラマツの価格変更の動きない。

・変わらず。

・秋田は丸太が下がらない。欧州材は為替が円安で高くなる。

・構造材市況を反映して仕入単価の下げ込みが想定される。原木は下級材高、上級材は下落し、総合して全体的には価格が下がっている。ないもの高も想定される。

## 27年6月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
生産動向	国産材	△ 8.3	8.3	8.3
	WW集成管柱	△ 16.7	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	16.7	33.3
	米マツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 8.3	0.0	0.0
	WW集成管柱	0.0	16.7	16.7
	RW集成平角	0.0	33.3	33.3
	米マツ集成平角	△ 100.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は6月の減少が7月、8月は増加、WW集成管柱は6月の減少が7月、8月は横ばい、RW集成平角は6月の横ばいが7月、8月は増加、米マツ集成平角は6月の減少が7月、8月は横ばい。

・国産材集成材の出荷は6月の減少が7月、8月は増加、WW集成管柱及びRW集成平角は6月の横ばいが、7月、8月は増加、米マツ集成平角は6月の減少が7月、8月は横ばい。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
スギ集成管柱	△ 33.3	△ 16.7	0.0
ヒノキ集成柱	△ 25.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	△ 25.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	△ 33.3	16.7	33.3
RW集成平角	△ 16.7	16.7	33.3
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	△ 50.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の価格は6月、7月の弱含みが8月は横ばい、ヒノキ集成柱及び土台は6月の弱含みが7月、8月は横ばい。

・カラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。

・WW集成管柱及びRW集成平角は6月の弱含みが7月、8月は強含みに。

・米マツ集成平角及びカラマツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい、米ヒバ土台角は6月の弱含みが7月、8月は横ばい。

## モニターからのコメント

## (構造用集成材荷動き)

・未だ本格的な製品受注の回復には至っておらず、生産量も同じである。出荷は、5月より引き続き荷動きの著しい回復は見られず、6月は横ばい、7月以降は被災地を中心に回復傾向の見込み。

・生産、出荷共に変わらず。

・国産材は生産調整中、WWは計画通り、RW平角は少しずつ増えている。国産材は価格が安すぎるため販売量を調整中。WWが計画通りの量しか販売しない。RW平角は受注が増える見込み。

・生産は季節的な要因もあり、少し増加すると見られる。ただし、大きな在庫をみんなが抱え込んでいるため荷動きが活発にならないと深刻な事態になると思われる。米ヒバ土台角は新たな顧客ルート開発でどうにか横ばいを維持。出荷は、新規顧客の獲得によるものと既存客の復調で多少は増えていく。ただ、他メーカーとの価格競争が激しくなってくる。米ヒバ土台角は新規客の獲得で増えるだろう。

## (構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、大手メーカーが値下げを要請している。並びに前月までと同様大手メーカーの安値玉も横ばいであることから販売先からの値下げ要請が強い。スギ集成材の需給バランスを考慮すると当面の価格は低調に推移する。カラマツは、大手ビルダーの製材メーカー指定化の影響が顕著。またヒノキの価格が下落していることもあり、販売先からの値下げ要請もある。こうしたことから値戻しを出来る環境になく、低調で推移すると予想。

・ほとんど変わらず。

・スギは未だ下げ止まらない。WWは今月が底値も知れない。RW平角は下げ止まった感がある。

・ヒノキ集成材は、横ばいか多少下がる、値下げは既に行ったところが多く、底値感となっている。ヒノキ集成土台は、出荷量は増えてきているが、価格を維持できる出荷量までになっていない。後1度くらいの値下の要求を応えられるか。米ヒバ集成土台は、今月くらいまで弱含みは続く。北海道、東北、日本海側でやっと出て来ているので、いずれ値段のことは言われなくなる。